2023年2月19日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

自分の心に何を語る

［ルカによる福音書12章13～21節］

群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

［1］　お金と私たち

今日の聖書箇所の最後の言葉（イエス様の言葉）は、こういうものでした。「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」（12:21）。

これはなかなか挑戦的な言葉だと思います。「神様の前に豊かになりなさい」。とても自分はそう言える生活ができているとは思えないな、いや、そもそも「神様の前に豊かになる」とはどういうこと？と考えさせられました。

今日の聖書箇所の最初の部分13～14節は「遺産」とか「相続」が問題になっていますし、その後のイエス様の譬え話は「持ち物」とか「財産」を蓄えることが言及されています。どちらも大きく括れば「富」とか「お金」の問題です。そして、聖書はそのような富とかお金について全否定していることはないと言って良いと思います。当然ですが、お金には「人格」はありませんよね。それはどこまでも道具・ツールです。でもそれはリトマス試験紙のようです。使う人や使い方でどうにでも変わると言いましょうか。例えば今度のトルコ・シリアの地震の義援金の為に用いることも出来るし、逆に札束で人を脅迫したり自分の願望・欲望の手段にもなる訳です。そして世の中にはお金絡みの問題というのは後を絶ちませんけれども、それは言い方を変えれば、お金には何か人間の心を捉える魅力・魔力があるからですよね。富は「偶像」になり得るのです。私たちはそこから好むと好まざるとに関わらず逃れられなくなり、そして、いつしか私たちは「お金はあればあるほど安心」という否定しがたい考えを抱いてしまうのです。しかし本当にそうなのか？今日のイエス様の話はそこを突いていると思います。

［2］ 「自分」という「倉」をたてる私たち

初めの部分、群衆の一人の人はどうしてイエス様に遺産について話を持ってきたのでしょうか。きっとこの人は遺産が自分に来ないか来そうもないということで、人生の教師のように思えたイエス様に相談したのでしょうね。けれどもイエス様の言葉はつれなく、私は裁判官でも調停人でもないよとその人に言われ、周囲の人々にも「貪欲に注意しなさい」と言われ、そして「人の命は財産によって左右できるものではないのだよ」というようなことを語られました。既にここに、一つの答えが出ていますね。イエス様は、財産よりも「人の命」の方を重んじている、ということです。まるでお金というものを生きるための必須の条件として捉え、あくせくして生きている私たちに、無くてならないものを何か勘違いしてやいないかい？と問うておられるのだと思います。

そのことがさらに明確になるのが16節以下の譬え話です。イエス様はこの譬え話の金持ちに対して「愚か者」と言っています。厳しい言葉です。この人の何が愚かなのでしょうか？彼は金持ちで、しかも畑は豊作で、それらと財産を守りたいということから倉もを建て直したというのです。そして彼は、自分の心にこう言ったとあります。「さあ、これから先何年も生きていくだけの蓄えができたぞ」（19節）と。これは悪いことでしょうか？そのあとの「ひと休みして食べたり飲んだりして楽しめ」という部分がいけないのでしょうか？彼は、富を蓄えて、危機のためにも備えをなし、時に飲食を楽しむということをするのですが、これは私たちも同じようなことをしているのではないでしょうか？ただ、私は今回読んでいて気になったことがあります。聖書がわざわざ「こう自分に言ってやるのだ」と書いていることです。単に“こう考えた”でも良いと思いますが、絶妙な表現です。勿論私たちは自分の心に語りかけることがありますよね。でもそれっていうのは、他人からは隠された領域です。そこには誰も入っていくことは出来ない、自分自身の「秘部」です。「本音」の部分と言ったらよいでしょうか。そこをイエス様は突くのです。この金持ちは何故「倉」を建て替えてでも、まず「蓄えること」を自分自身に語るのか。―それは基本的に「恐れ」があるからです。自分で自分を支えないと不安。ですからこの新しい「倉」とは、「自分」という金庫です。自分で自分を守っているのです。イエス様は、そういう生き方はするのを止めなさい、いや、しなくてもいいのですよ、とおっしゃっていると思います。やがてあなたにも「死」が訪れる。あなたは自分の命の造り主ですか？そうではないでしょう、あなたを本当に養って下さるお方、死を超えてもなおあなたを導いてゆかれる神様のことを人生の中心に据えて生きていくことの方が「蓄え」で汲々とすることより大事なのではないですか？あなたの恐れを根本的に取り除いて下さるお方のことをこそ「自分自身の心」に語りかけなさいとおっしゃっていると思うのです。これは私たちに対するイエス様の愛の招きです。

［3］ 神様と真向かって生きる生き方こそ

沢山財産を積んで、それがあなたの本当の幸いを保証するものにはならないでしょう、かえって孤独なあなたはもうそのことに気付いているのではないですか、そうではなくて「神様の前に豊かになりなさい」とイエス様は言われます。…この「神様の前に豊かになる」とはどういうことでしょうか。色々な言い方が出来ると思います。けれどもそれは、何か習慣的な信仰生活をしていれば豊か、ということではないと思うのです。「私はもうバプテスマを受けたから左うちわ」ではないですよね。今、「自分自身の心」に何を語るか、ということではないかと思います。

私たちは時々「人に迷惑をかけるのは嫌だ。特に家族には迷惑をかけたくない」ということを考えることがあると思います。私も自分の親から言われてちょっと辛かったのは介護のことで「迷惑をかけるね」としばしば言われたことでした。気持ちが分からないではないですよ。私も20年後とかそんな言葉を漏らすことがあるかも知れない。でも思うのです。神様は私たちの天の父です。まことの親、真の養い主です。このお方は、私たちの髪の毛一本までも覚えられている愛のお方ですよね。このお方は、私たちを面倒見たくて見たくてしようがないお方なのです！とことん面倒を見て下さいますよ。そして事実、面倒を見て下さいました。罪の塊である私たちのために十字架にまでかかって下さったではないですか！私たちは、そんなお方に「迷惑をかけてごめんね」なんて言うのではなくて、神様は多分そんな言葉は聞きたくなくて、ただただ「ありがとうございます」「感謝します」という言葉こそ、心の中で深く言うべきです。「さぁ、この蓄えで生きていけるぞ。安心しろ」ではなくて、私たちの本当の安心は、私たちを赦し、受け入れ、永遠の御国をご用意くださっているこのお方の許にあります。このお方に思いっきり迷惑をかけて良いのです。むしろ、そのようにして神様・イエス様に体当たりして生きていく生き方、それは財産のあるなしではない、健康のあるなしではない、神様と真向かって生きる生き方こそ「神様の前に豊かに生きる」生き方なのだと思います。それはまた孤独からの解放でもあるはずです。…ここまで御言葉を読んできて私たちにこのあとの有名な御言葉も本当に慰め深く響いてくると思います。ルカ12章22節以下です。お聞きください。

「それから、イエスは弟子たちに言われた。「だから、言っておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ。烏のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は烏（からす）を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。あなたがたのうちのだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思い悩むのか。野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」

お祈り致します。

愛する主よ、私たちのことをまことの父として愛して下さっていることを感謝致します。私たちは、いつもあなたとの関係を新しく生きて行きたいと思います。「蓄え」だけであるなら、それは減少してゆきます。かび臭くなってゆきます。私たちをいつも新しくして下さるのは主の御言葉であり、聖霊です。どうか私たちを真に養い、赦し、捕えていて下さるあなたの前に悔い改めと感謝を新しくさせて頂いて、この地上の旅路を歩ませて下さい。今日様々なご事情で礼拝に集えなかった方々の上にあなたの顧みをお与え下さい。私たちのこの一週間の歩みを守り、また新しく御言葉を頂く主日の礼拝を大切に出来ますようにお助け下さい。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。